

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：小規模多機能ホーム きいちご倶楽部

施設種類：グループホーム ・ 小規模多機能型居宅介護施設（該当に○）

日時：平成 29 年 10 月 11 日 15 時～16 時

会場：きいちご倶楽部 第 2 リビング

出席者

（人数）

利用者代表	1 人	有識者	2 人
利用者家族	0 人	高齢者あんしん 支援センター職 員	1 人
地域住民の代表	1 人	出雲市職員	1 人
その他（法人理事長、管理者、職員）			2 人

（報告事項）

1. ご利用の状況

現利用登録者は 14 人であり、8 月から 9 月に 3 人の方が施設等に移られたことを報告した。それに伴い通い、泊まりは 9 月には減ったが、訪問は増加してきている。

2. 8 月～10 月初旬の主な活動、行事

「きいちご便り」第 8 号に沿って、日頃の活動、ひかり保育園の行事への参加、地区の敬老会などへの参加や活動を報告した。

（要望、意見、助言等の要点）

- ・ ご利用者から日ごろの利用、先日の遠足の話を書いた。畑の草取りや虫取りをやりましようと言ってくだった。
- ・ きいちごの菜園や畑づくりについて助言をしてあげる。
- ・ 利用者が減って、今後居宅のケアマネを PR に回るようにしたい。
- ・ 民生委員、福祉委員が把握した情報は、あんしんに報告することが多い。地域の困りごとを市とあんしんが連携をして、情報を共有してゆくべきだ。
- ・ 小規模多機能を利用しようとするケアマネを変わらなければならないのは、それまで馴染みだったケアマネをかわらなければならない、抵抗がある。小規模を利用しようとする人にとってマイナスではないか。小規模多機能の利用を始めても、ケアマネが代わらなくともよいようにすべきではないか。

（文責 山崎賢二）